

連載

# 96 在宅医療奮闘記

平成7年より  
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長  
**橋本 満義** (66歳・内科)

## 日本一のお花見、 気持ちも心も桜は満開で感動す。

最近の出来事で、私がまだ若かりしころ、15年前の思い出が走馬灯のごとく、よみがえってきました。



それは年の暮れのことです。Aさん(83歳、男性、末期肺がん)の在宅緩和ケアを開始することになったのです。自宅療養でしたが、24時間365日態勢での訪問診療・往診、訪問看護・介護の提供は、まるで病院の特別室で入院治療を受けているようでした。

年が変わると、心肺機能低下や食欲不振の症状がみられるようになり、在宅酸素(HOT)を開始し、点滴静注補液を適時行いました。その後、がん疼痛も発現したので、治療薬としてオピオイド(モルヒネあるいはモルヒネのような薬理作用を發揮)を導入することになったのです。

Aさんの病状は、終末医療となってしまいましたが、なんとか春の桜の下でお花見ができるまで命を永らえたいと、しぼり出すような声でお願いされました。そこで、Aさんの体調の良い日に花見をすることになり、公園に集合しました。参加者は、ご家族11人とわんちゃん(飼い犬)、そして本院スタッフ、看護師、マネージャー 5人の総勢16人プラスわんちゃんでした。公園は、桜満開ではありませんでしたが、花屋さんが提供してくれた桜の切り花がきれいに咲きほこり、その日の参加者の心は、桜満開のような満足感と感動に包まれたのです。そして、思わず涙したのです。

しばらくして、Aさんは天国へと旅立たれましたが、今回のご縁で他事業所さまからも在宅医療の依頼があり、末広がり満開となったのでした。

誰が言い出したのかは定かではありませんが、主治医と患者さん、そして当院スタッフとご家族とわんちゃんが同じ空間で同時に同じ思いにひたるなどということは、まれなことで、自然界の営みからすれば一瞬の出来事ですが十分にあり得ることではないでしょうか。  
ものの本によれば、熱い思いは一種の求心力としてのエネルギー「ネグトロピー」となり、このような仕草となるようです。

## 「お医者さんが来てくれる」

24時間・365日態勢で対応(松山市全域)

私たちは質の高い在宅医療・看護・介護を目指しています。



**医師数 22名**  
(常勤8名、非常勤14名)  
**内科・外科専門医 18名**  
(国立がんセンター勤務歴有3名)  
**精神科専門医 2名**  
(ペインクリニック科)  
**末期がん治療(緩和ケア)  
相談室開設!**

Hyper Blood Viscosity (高血液粘度群)を科学する **臨床生命科学(体質・病態学、栄養学)研究所開設**  
「地方創生健康長寿研究会」平成27年4月1日発足

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

## (医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788  
<http://www.touzaikai.jp/>